

愛のマゴの手プロジェクト 2022 年度事業報告書

2023 年 3 月

令和 4 年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

認定 NPO 法人心の架け橋いわて

目次

1. 事業概要	1
2. 2022年度の事業実施における目標と取組	1
3. 各取組の成果	2
(1) 説明会の実施	2
(2) PR動画・チラシの制作と配布	4
(3) スマホ教室の実施	6
(4) 個別支援の実施	8
(5) 団体向け支援の実施	13
(6) 「高齢者向けICT支援の進め方マニュアル」の制作と配布	14
4. 成果と課題	15
5. まとめと今後の展望	16

1. 事業概要

本事業は、i-MgNT(愛のマグの手)プロジェクト(以下、本プロジェクト)として、新型コロナウイルス感染拡大による行動制限下での、被災地の高齢者を中心とした、パソコンやオンラインサービスの利用に不安を抱える方々の社会参加と孤独・不安、フレイル(心身の虚弱)予防を目的に大学生支援者が支援対象者のICTサポートを行ったものです(図1)。

2020年7月に慶應義塾大学、岩手県立大学、岩手保健医療大学とともに当法人が事務局としてパイロット事業を開始し、その成果を受けて2021年2月よりプロジェクトの対象者を拡大してきました。

これまで、個別的な支援を中心にプロジェクトを推進してきましたが、2022年度における新たな試みとして、団体向けの支援の可能性を探り、団体向けのアプローチにも力を入れるとともに1団体について、パイロット的に団体向け支援を開始しました(図2)。

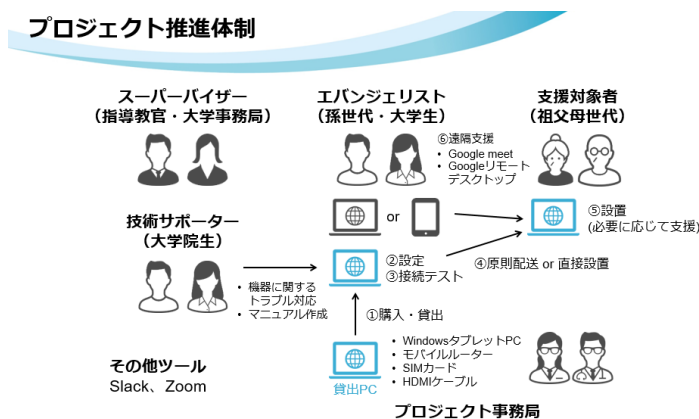


図1 プロジェクト体制図(2020年第9回東北みらい創りフォーラム発表資料より引用)

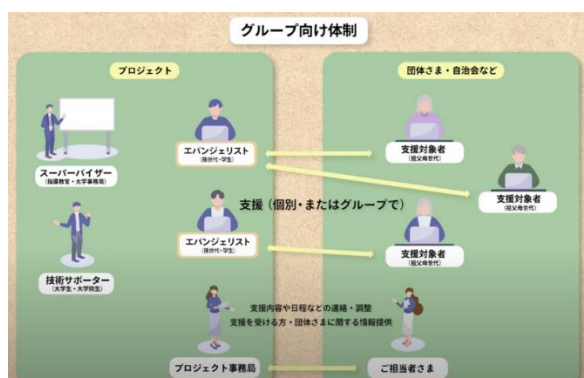


図2 団体向け支援体制(参加者募集動画から引用)

2. 2022年度の事業実施における目標と取組

今年度の事業実施においては、事業規模の拡大を目標として、これまで通りの個別支援を含む以下の6つの取組を行いました。

- (1) 参加者（高齢者・学生）募集のための説明会の実施
- (2) 広報活動として、PR 動画・チラシの制作と配布
- (3) スマホ教室の実施
- (4) 個別支援の実施
- (5) 団体向け支援の実施（パイロット実施）
- (6) 支援者・支援団体向け「高齢者向け ICT 支援の進め方マニュアル」の制作と配布

3. 各取組の成果

(1) 説明会の実施

愛のマゴの手プロジェクトへの参加者募集のため、説明会を以下の通り実施しました。

1 回目<学生支援者募集>

日時：2022年6月29日(水)

場所：岩手県立大学ソフトウェア情報学部

説明者：岩手県立大学特命教授 佐々木淳

参加者：学生7名

2 回目<支援者及び支援希望者募集>

日時：2022年9月4日(日)

場所：盛岡農林会館702

説明者：心の架け橋いわて遠隔支援メンバー 田辺有理子

愛のマゴの手プロジェクト事務局 山本みゆき

参加者：16名

3 回目<支援希望者募集>

日時：2023年2月13日(月)

場所：おしゃっち(大槌町)会議室2・3

説明者：岩手県立大学特命教授 佐々木淳

参加者：8名

4 回目<支援希望者・参加団体募集>

日時：2023年3月4日(土)

場所：オンライン(岩手・宮城・福島の支援団体による会議「ここ・から・なごみ」にて)

説明者：心の架け橋いわて理事長 鈴木満

愛のマゴの手プロジェクトリーダー 水口高翔

参加者：32名

1 回目の学生支援者募集では 1 名の学部生がプロジェクトに参加し、個別支援、後述するスマホ教室など積極的に参加するに至りました。2 回目の心の架け橋いわて主催の研修会参加者向けの説明会においては、参加者の紹介により岩手県内在住の高齢者 2 名から支援の希望を受け、2022 年度中に支援を開始することができました。

3 回目の説明会は、スマホ教室の実施に合わせて行いました。4 回目の説明会は、岩手・宮城・福島の支援団体による会議「ここ・から・なごみ」の中で説明会を実施し、団体としての参加・協力を依頼しました。本説明会に当たってはチラシ(図 3)を用意し周知することで、医療関係者を中心に 32 名の方の参加を得ることができ、プロジェクトの重要性についてご理解いただきました。



図 3 ここ・から・なごみ、愛のマゴの手プロジェクト説明会チラシ

支援希望者の募集は、心の架け橋いわてが主催する岩手県大槌町内でのサロンやスマホ教室開催の際に関連動画の放映や参加募集の呼びかけを重ねました。4回目、5 回目のスマホ教室実施時には、支援の様子を実際に体感して頂くため、支援に活用しているタブレットをスマホ教室会場に設置し、オンラインで支援者につながる体験をして頂きましたが、スマホ教室参加者からの個別支援希望者は残念ながらいらっしゃいませんでした。

写真は 1 回目の学生支援者募集説明会の様子です(図 4)。



図 4 (写真) 2022 年 6 月 29 日 (水) 愛のマグの手プロジェクト説明会 (岩手県立大学)

(2) PR 動画・チラシの制作と配布

支援希望者募集、学生支援者募集のため、PR 動画およびチラシを作成し配布しました。作成した動画、チラシの概要、おもな上映場所・配布先は以下の通りです (図 5、6)。

制作物の概要

PR 動画① (支援希望の方向け)

<https://youtu.be/zEUWYkK7fgI>



PR 動画② (学生向け)

<https://youtu.be/iSNw9d7xTFQ>



PR 動画③ (団体・グループ向け)

<https://youtu.be/5DB76Jgo5I0>



図 5 動画の概要

チラシ(支援希望の方向け)

参加者募集
こんなお悩みをお持ちの方……

インターネットって何？
どう使えばいいの？
教えてくれる人がいれば……

テレビ電話や
オンラインでの健康相談
インターネットショッピング
便利で楽しそうだけど設定が分からない

皆さまの「できたらいいな」「やってみたいな」等々を
大学生がお手伝いいたします！
愛のまごの手プロジェクト
岩手県内在住高齢者のためのパソコン・スマホ活用支援プロジェクト

- 参加無料・機材・ネット環境は無料で貸し出し致します。
- 初心者様も大歓迎！
- お一人様・町内会などのグループ様でもお申し込みOKです。
- オンラインでの実施（機材は無料貸出可）
- 実施場所・人数によっては出張します！

岩手県立大学 / 岩手保健医療大学 / その他県外の大学等

▼ お問い合わせ・支援希望の方はこちらまで ▼

認定NPO法人心の架け橋いわて
電話 / FAX : 019-651-2117 Eメール : info.kokorogake@gmail.com

令和4年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉院利用助成事業

チラシ(学生支援者向け)

愛のまごの手
(i-MgNT)
事業

学生支援者募集

心の架け橋いわて(こころがけ)では、高齢者(祖父母世代)のICT利用を支援する「愛のまごの手事業」に参加していただける学生支援者(孫世代)を募集しています。
ご関心のある方はぜひご連絡ください。

ご協力いただきたい方
大学生(短大生・専門学校生も可)で、高齢者のICT活用支援または健康支援にご関心のある方。
※ICTに詳しくない場合でも、ICTを専門とする大学生・教員のサポートがあります。
※ご自身のご家族様さまと一緒にご参加も歓迎します。

ご協力いただきたい内容
・月に数回、オンラインで、パソコン・スマホ初心者の高齢者に使い方の支援(40分ほど)を実施して頂きます。
・支援開始前・終了時に簡単なアンケートの実施と毎月の業務報告をお願いします。
その他
・ご参加前に改めて説明と短いインタビュー(電話・zoomなど)を予定しております。
・謝礼をお支払いします。
・連絡先(心の架け橋いわて事務局) : info.kokorogake@gmail.com

事業の詳細は、心の架け橋いわて愛のまごの手プロジェクト紹介動画をご覧ください。

令和4年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉院利用助成事業

図6 チラシの概要

おもな動画上映・チラシの配布場所

動画は心の架け橋いわてが主催する高齢者向けサロン、支援者が集まる研修会、学会等で上映を行いました。チラシは、心の架け橋いわてが主催する高齢者向けサロンの他、岩手保健医療大学の大学祭、岩手県陸前高田市で行われた「はまかだ交流会」にて、岩手県奥州保健所の協力を得て交流会参加者への配布を行いました。また、チラシについては、心の架け橋いわてにこれまでご寄付くださった方など約100名に郵送しました。

写真は「はまかだ交流会」でのチラシ配布の様子です(図7)。



図7 (写真)2023年1月28日(土)「はまかだ交流会」でのチラシ配布の様子(陸前高田市)

(3) スマホ教室の実施

スマホ教室は大槌町文化交流センター「おしゃっち」との共催によるスマホ初心者向けの教室です。2021年度に初めて開催し、大変好評だったことから2022年度も継続して実施しました。今年度の実施状況は以下の通りです。

1回は残念ながら中止となってしまいましたが、全4回開催することができました。4回目、5回目については、大槌町の後援を得ることができ、また、これまではおしゃっち会議室での実施のみでしたが、4回目では大槌町内の公民館での実施という、新しい試みも行いました。

1回目

日時：2022年7月28日(木) ※支援者の体調不良により中止

2回目

日時：2022年9月28日(水)

場所：おしゃっち会議室

説明者：岩手県立大学特命教授 佐々木淳、学生支援者3名

参加者：14名

3回目

日時：2022年11月16日(水)

場所：おしゃっち会議室

説明者：岩手県立大学特命教授 佐々木淳、学生支援者3名

参加者：9名

4回目

日時：2023年2月13日(月) 午前

場所：大槌町中央公民館安渡分館

説明者：岩手県立大学特命教授 佐々木淳、学生支援者3名

参加者：7名

5回目

日時：2023年2月13日(月) 午後

場所：おしゃっち会議室

説明者：岩手県立大学特命教授 佐々木淳、学生支援者3名

参加者：8名

頂いたご質問・相談:

- ・アンケートの中の言葉が分からない
- ・料金が高い
- ・電池の消耗が激しい
- ・YouTube の動画をダウンロードして編集したい
- ・スマホの写真を iPad に自動的に転送できるようにしたい
- ・Google Map を使いたい
- ・その他、LINE、Wi-Fi、インターネット検索、zoom、YouTube・Instagram などの SNS の使い方 など

これまで複数回実施して来たスマホ教室ですが、実施する中で、高齢者の方のスマホ・インターネットに関する知識や経験の多様性に改めて気づくよい機会となりました。第 3 回目実施の際には、ご相談 1 件にかかる時間を計測し、ご相談によって対応にかかる時間が大きく異なることを確認しました(表 1)。

事前に参加者のスマホ・インターネットに関する知識・経験の程度を把握することは難しいため、十分な支援者の数を確保して臨むことで、ご相談に来られた方が真に知りたい・学びたいことに応じることを支援者の間に確認しました。

表 1 ご相談への対応時間

支援者	ご相談者	年齢層・性別	機器	時間
A	1 人目	70 代女性	らくらくフォン	20 分
	2 人目	70 代女性	らくらくフォン	20 分
	3 人目	80 代女性	らくらくフォン	40 分
B	1 人目	70 代女性	Android	20 分
	2 人目	60 代女性	Android	40 分
C	1 人目	70 代女性	iPhone	15 分
	2 人目	70 代女性	Android	40 分
	3 人目	60 代女性	Android	10 分
	4 人目	70 代女性	iPhone	10 分

写真はスマホ教室の様子です(図 8)。

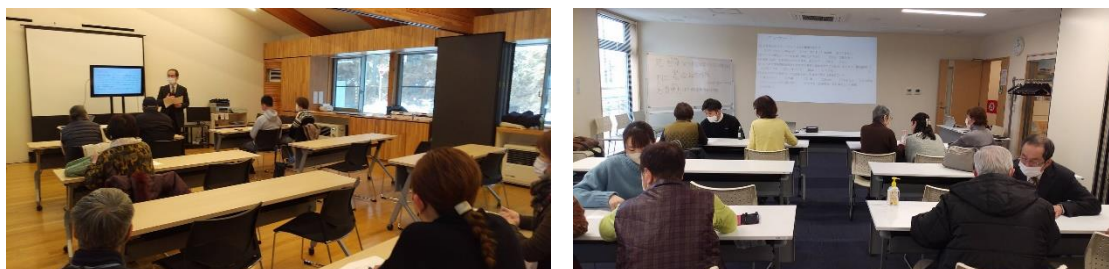


図 8 (写真) スマホ教室の様子 (左 安渡公民館、右 おしゃっち)

(4) 個別支援の実施

個別支援については、支援開始から 2023 年 3 月までに 58 名の方に対して支援を行いました。このうち、被災地域在住の方は 51 名で、それ以外の地域にお住まいの方については、当法人への寄付金を活用し支援を実施しました。説明会を通じて参加された方もあり、広報活動により、確実に支援対象者を拡大することができました。

これまで、タブレットやパソコンでの支援が中心でしたが、今年度からはスマホを活用した支援を行うケースも増え、支援内容も多様化、拡大化しています。今年度中の支援におけるおもな支援内容は以下の通りです(表 2)。

表 2 2022 年度中の支援内容<支援者の業務報告から一部抜粋>

支援内容
<ul style="list-style-type: none"> ・ Google カレンダーの日付変更設定の仕方 ・ Facebook 利用 ・ 新規スマホ購入にあたりデータ移行について ・ Google ドライブへのアクセス方法 ・ スプレッドシートの使い方(行の追加、オートフィル) ・ Google スライドの使い方(新規作成、テキストボックスの操作) ・ YouTube…コメントを書くときに表示される名前とアイコンの変え方。表示設定について。 ・ スマートフォンにあるアプリのカレンダー機能の使い方 ・ Facebook…写真を投稿する際の加工の仕方について ・ スマートフォンの画面に電話番号を登録する方法 ・ 音声入力の方法 ・ スマホアプリでの Facebook の投稿の仕方と、公開設定の方法。 ・ Facebook のいいねの公開方法 ・ タッチペンの使用方法について ・ 健康面についてヒアリング ・ 災害時避難所についてご相談 ・ Facebook の基本操作の確認、Wi-Fi とパケットについての確認 ・ Gmail の新規作成と送信受信の確認方法 ・ Google, Facebook, Microsoft のソフトウェアに関する簡単なレクチャー ・ Facebook の使い方について(ホーム画面に出ているアイコンについて順番に確認)

- ・ Google スプレッドシートを利用して家計簿作成
- ・ Google と YouTube の使い方確認。
- ・ LINE の使い方
- ・ T ポイントアプリの導入、利用方法、d ポイントカードについて
- ・ Wi-Fi について、sim カードについてなど座学の様なものをしました。
- ・ Google 検索(服用中の薬の副作用について)
- ・ アマゾンのアカウント登録と使い方(商品の検索方法について)
- ・ エクセルのセルの固定解除
- ・ メルカリへの会員登録、簡単な利用の仕方について
- ・ スマートフォンでのアプリのインストール、ログイン
- ・ Google アカウントのパスワード変更
- ・ さまざまなサービス(Tver, Amazon, Facebook, Twitter)についての勉強。
- ・ スプレッドシートを利用したカレンダー作成
- ・ スプレッドシートの作成及び共有、スプレッドシートの使い方全般について支援を行った。
- ・ スプレッドシートへのアクセス支援、スプレッドシートの編集支援(リモートデスクトップ支援無し)
- ・ スマートフォン、携帯会社について
- ・ スマートフォンでの決済方法について、手紙の作り方について
- ・ スマートフォンへの予定の入れ方
- ・ チケットぴあへの会員登録
- ・ フォルダの作成、フォルダへの写真の保存、スリープ状態について
- ・ ホームページの更新と Facebook の投稿
- ・ 腰痛ストレッチ、腰痛体操
- ・ 坐骨神経痛の治し方及びセルフケア方法について動画視聴
- ・ 対象者さんの服用している薬剤の副作用について WEB 検索
- ・ 避難所に関する意見交流会について

支援を受けた方に対するアンケートも実施しました。団体向け支援の中で支援を受けている方にもご回答頂きました(図 9・10、表 3・4)。

10 名の方にご回答頂き、支援を受けられている方が概ね支援に満足されており(80%が満足)、支援を通じてできることが増えた(90%ができることが増えた)様子が窺えました。

「やや不満」と回答した 2 名はそれぞれ「(できることが)増えていない」または「やや増えた」となっており、できることが増えていない場合には満足感を感じにくい可能性が窺われました。また、「やや不満」と回答した 1 名に個別にお話を伺ったところ、支援の日程がなかなか合わず、支援回数が少なかったことも不満を感じた理由として挙げられるようでした。

支援を受けた満足度を教えてください。以下の4つの選択肢からひとつだけ選択してください。
10件の回答

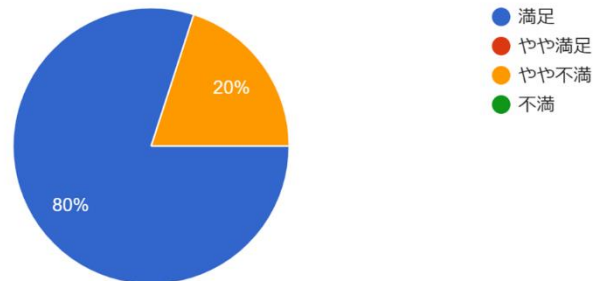


図 9 支援を受けた満足度

支援を通じて、パソコンやスマホ、インターネットでできることが増えたかどうか教えてください。以下の4つの選択肢からひとつだけ選択してください。
10件の回答

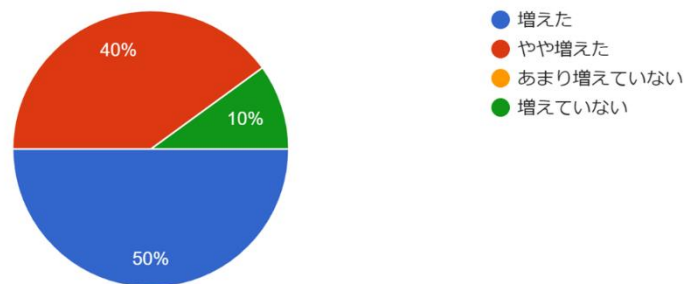


図 10 支援の効果

表 3 支援を通じてできるようになったこと

- Google での検索。zoom の使用の仕方。
- gメールの送り方 google スライド
- YouTube ができるようになりました
- Zoom
- グループメールの立ち上げ・ZOOM・ペイント
- スマホでお買い物に挑戦できた
- パソコンを使って zoom
- パワポの基本的な部分
- Google アカウントを使って他のデバイスとの連携

表 4 プロジェクトに関するご意見や感想

- このまま続けていってほしい
- ネットに関する知識が深まりました。パソコンに関する興味も増してきました。
- パソコン以外のいろんな教室を開いて欲しいです
- 愛のマゴの手プロジェクト、支援員の方々から懇切丁寧に支援して頂いております。心から御礼申し上げます。
- 何度も繰り返して学習していただけるのでありがたいです
- 感謝申し上げます。
- 具体的に教えて頂いて助かります
- 孫と zoom を使用して話すことができている。インターネットで様々なことを検索することができて楽しい。
- 熱心で丁寧なご指導をいただき、感謝しております。

学生支援者にもアンケートを実施し、8名から回答を得ました。結果は以下の通りです。学生にとっても大きな学びとなっている様子が窺われました(図11~13、表5・6)。

プロジェクトに支援者として参加した満足度を教えてください。以下の4つの選択肢からひとつだけ選択してください。

8件の回答

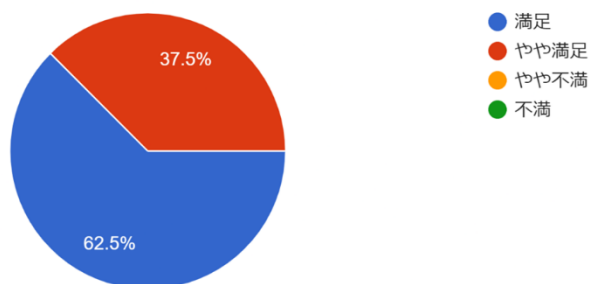


図 11 支援に参加した満足度

愛のマゴの手プロジェクト事務局の運営に関する満足度を教えてください。以下の4つの選択肢からひとつだけ選択してください。

8件の回答

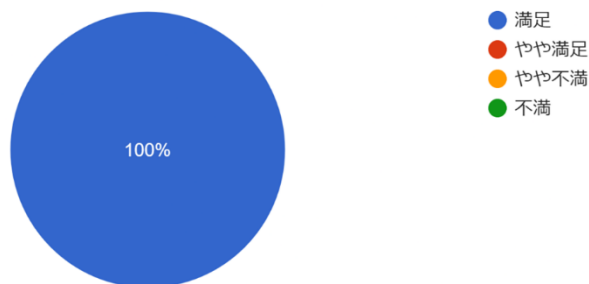


図 12 事務局運営に関する満足度

支援を通じて学びはありましたか。以下の4つの選択肢からひとつだけ選択してください。

8件の回答



図 13 支援を通じて学びがあったかどうか

表 5 プロジェクトを通じてどのような学びがあったか

- 高齢者がスマートフォンでやりたいこと、できないことなどどのような助けを求めているのかを学んだ。
- 人に何か教えるということの難しさ
- 人生経験からくる考えの違いなど
- Google リモートデスクトップが使えるようになった
- 看護・福祉・IT のような私の専門とは全く異なる活動に参加することにより、視野が広がったように感じる。また、高齢者(祖母)への支援を通して、私たちが普段使用しているスマホなどの機器が非常に複雑なものであるということが理解できた。
- 高齢者との関わりのツールの一つとして、デジタルデバイスが有効であること
- 高齢者の方がどのような点に難しさを覚えているのかを知ることができました。例えば、文字の見えにくさや手順の覚えにくさなど、普段気づかない新たな視点を知ることができました。
- 色々教えたいという気持ちが先行しすぎた結果、情報量が多くなり上手く伝わらないことがありました。難しい言葉を噛み砕いて説明したり、最初に支援内容を確認して見通しを持たせたりするだけでなく、相手のペースに合わせることも大切で、自分にはその視点が足りていなかったと活動を通して気づけたと思います。

表 6 プロジェクトに関するご意見や感想

- 高齢者も日常的に使用することで、徐々に使いこなせるようになるということがとても嬉しかった。
- スマホ教室は教えている側も勉強になるのでこれからも続けて欲しい。
- 高齢者の方の持っている ICT に関する悩みを知る中で、高齢者の方と関わる際、どのようなことに注意して接すれば良いから学ぶことができ、とても勉強になりました。

(5) 団体向け支援の実施

今年度の新たな取組として、団体向けの支援を実施しました。これまでも利用者さん向けに 1 回に複数名が参加する集団形式のパソコン教室を実施していた、釜石市の NPO 法人様への支援を実施しました。

パソコン教室で講師を務めていた学生 1 名と事務局 1 名の計 2 名が担当しました。当初、作業進捗管理ツールや利用者さん間のコミュニケーションツールの構築を検討し、複数回の打ち合わせを行いました。利用者さんの ICT 活用能力向上支援へのニーズが高く、以下のようなこれまでの集団形式でのパソコン教室で明らかになっていた課題(表 7)を踏まえ、より効率的で効果の高い支援を実施することにしました。今年度の支援としては、2 名の方への支援を実施しました。

表 7 集団形式のパソコン教室の実施で確認された課題

- ・参加者の ICT スキルの違いにより、1 人 1 人のニーズに合ったテーマ設定やスキルに合った支援を行うことが難しい。
- ・利用者さんと学生とのコミュニケーションも重視したいが、集団の場合は十分なコミュニケーションが取れない。
- ・パソコン教室内で 1 人 1 人の質問に十分に対応することができないため、団体様担当者に利用者さんからの質問が集中し、スタッフの方が対応に追われてしまう。
- ・質問への対応に加え、パソコン教室の実施に当たっても参加者全員の日程調整を行うなど、パソコン教室実施におけるか団体様側担当者の方が対応に追われてしまう。

以上のような課題を踏まえ、団体様と打ち合わせを重ね、1 人 1 人のスキルやニーズに合った個別での支援を行うこととし、進め方の基本ルールを決めました(表 8)。

表 8 課題を踏まえた支援の実施体制

- ・原則、利用者さん 1 名に対して支援者 1 名または 2 名の個別支援とする。
- ・日程調整その他のやり取りは利用者さんと支援者とで直接行う(団体様担当者を介さない)。
- ・日程調整については 1 回終了時に次の日程を決める。変更が必要な時にも担当者は介さずに直接やり取りを行う。

また、団体様側担当者とのやり取りは以下のようなものとなりました。

表 9 団体様担当者とプロジェクト支援者・事務局とのやり取り

- ・(団体様⇒プロジェクト) 支援開始時の支援希望者に関する、お名前、連絡先、支援内容などに関する情報提供。

- ・ (団体様⇄プロジェクト) 必要な機材に関する相談、手配、配置。
- ・ (団体様⇄プロジェクト) 定期的な進捗の報告。

支援の内容は以下の通りです。就労を見据えた準備の一環としての ICT 活用スキルを高めたいとのご希望が高く、特色ある支援となりました。ビジネススキルに関わる部分についてはプロジェクト事務局スタッフによる支援も行いました。

表 10 団体様での支援内容

- ・ メールの使い方 (送受信、署名の入れ方、受信したメールの振り分け)
- ・ メールの書き方 (To, Cc, Bcc の違いなど)
- ・ PowerPoint の使い方 (Google スライドを用いて支援)
- ・ 資料の共有方法
- ・ 自宅でのインターネット環境の構築について

(6) 「高齢者向け ICT 支援の進め方マニュアル」の制作と配布

今回、これまでの学生支援者による業務報告の内容や定例会議での発言等をまとめたマニュアルを制作しました。目的等概要は以下の通りです。

- 想定する読者: マゴの手支援者および同様の支援を考える他の団体、学生など
- 目的: プロジェクトがこの 2 年間で得たノウハウをまとめることにより、今後の支援の質向上を図るとともに、他の団体・支援者が同様の支援を実施する際の参考として頂く
- 概要: 全 16 ページ冊子形式、300 部印刷

マニュアルに記載されている学生支援者による気づきなどは、データとして残っている業務報告、定例会議の議事録などのデータを一覧にしたのちに、マニュアル制作担当 3 名により、報告内容を分類、整理しまとめました。これに、支援に関わる専門家からの視点を加え、マニュアルの形式にしました (図 14)。



図 14 マニュアル表紙

4. 成果と課題

今年度の事業における成果には大きく以下の3点が挙げられます。

① スマホ教室の拡大および自治会・大槌町との協働

前年度実施し、非常に好評をいただいたスマホ教室は、今年度実施回数を増やすとともに、大槌町内の自治会での実施や大槌町の後援を得た実施ができました。来年度に向けて、地域の関係機関との連携をより強くしていきたいと考えています。

② 団体向け支援の実施

本プロジェクトをより多くの方にご利用いただく1つの方法として、他団体との連携による、他団体の利用者向けの支援を行うことを考えていましたが、今年度、実施にまで至ることができました。

団体向けの支援では、個別支援にはない、他団体の担当者・事務局との連絡・調整が必要になりますが、これをいかに双方にとってやりやすい方法で進められるか、ということが非常に重要であるということに気づくことができました。

まだ始まったばかりの支援形式ですので、先方の担当者とのやり取りを密に行い、より良い方法を探っていきたいと考えています。

③ マニュアルの制作

これまでの2年間の支援実施において得られたノウハウを1冊のマニュアルにまとめることができました。これを活用することで、新しく支援に当たる学生が支援者として早く自立できることが期待できるとともに、本プロジェクトのノウハウを他団体でも活用していただくことで、高齢者向けのICT活用支援が広がることを期待しています。

本プロジェクトの課題は支援希望者(祖父母世代)と支援者(孫世代)の恒常的確保です。より多くの方にサービスを届けるためには、利用者を増やしていくことが望ましいのですが、大半の事例で長期継続的支援ゆえに効果が得られたため、ある程度利用者を限定せざるをえないという事情もあります。

今後は、支援が進み自立的にICT活用できるようになった方々に「高齢支援者」になって頂いたり、高齢者ネットワーク作りに協力して頂くことで、新規参加者の参入を促進する等の方策を検討しています。また広報活動のスタイルを変えることにより手応えを感じ始めています。説明会などで情報端末を実際に手に取ってもらうことで新規の支援を希望される方が増えています。

支援者については、支援経験を積んだ大学生や大学院生が就職を機に活動継続が難しくなる場合が多く、新規支援者募集と育成体制整備の必要性が高まっています。新規支援者確保のためには、広く大学教員への協力を求めています。大学の先輩から後輩に支援ノウハウを伝承する事例を散見しており、今回作成したマニュアルを活用して側面支援する若手人員(工学系大学院生やICT専門家)も合わせて募集しています。

最大の課題は、本事業を継続・拡大するための資金確保です。ハードウェアについては、整備を進

めることができましたが、有償ボランティアである支援者への謝金、煩雑な連絡調整を担当する事務局経費は今後とも発生します。大変有り難いことに利用者の皆様からご寄付を頂くことが増えてきてはいますが、それだけで運営をまかなうには至らず、助成金や補助金に頼らざるをえない状況です。ファンドレイジングをさらに強化し、事業化についても検討が必要と考えています。

5. まとめと今後の展望

本プロジェクトは開始から3年目に入り、支援のノウハウが確実に蓄積されてきました。スマホ教室など新しい形式の支援は、自治会や町役場などとの連携に繋がり、また、支援者募集を通じて、岩手県保健所との連携にもつながりました。

これまで、個人とのつながりが主であった本プロジェクトに、他団体・機関が加わることで、より大きな支援の輪を構築する基礎ができつつあると考えています。このつながりを更に大きく、強固なものにすることで、高齢者のICT活用支援を通じた、高齢者の社会参加と孤独・不安、フレイル予防を更に進めていきたいと考えています。